

小児事故



防止マニュアル

～こどもたちの笑顔のために～

和歌山市消防局
WAKAYAMA CITY FIRE DEPT.



こどもの事故ランキング

(令和5年和歌山市における救急搬送統計データから)

1位 屋内で転倒・転落



2位 屋外で転倒・転落



3位 交通事故



4位 窒息・誤飲



5位 やけど



6位 落下物・スポーツ



7位 動物・入浴中



8位 溺水





事故の一例（参考）

- 0歳児、足の小指に髪の毛がからまり、うっ血
- 0歳児、テーブルをかみ、下の歯が抜け出血
- 2歳児、友人が乗っていたブランコに正面衝突
- 4歳児、家族に両手を引き、持ち上げられた際に肘部を負傷
- 4歳児、テニスコートで父親が振ったラケットが頭にあたり負傷
- 11歳児、校内を走っていた際に壁で頭を打撲し負傷などなど



原因別の事故防止ポイント

【転倒・転落編】

- ① こどもの転倒は、生後8-9か月頃から始まり、一人歩きを始める1歳でピークになります。
- ② こどもは相対的に頭が大きく、重心が高いので転倒しやすく、低年齢ほど頭をけがしやすいという特徴があります。

予防

屋内で転倒・転落

- ・ こどもは、少しの段差でつまづきますので、**床に物をたくさん置かない**など工夫しましょう。
- ・ 階段や大人用ベッドから転落しけがをすることがあるので、**転落防止柵**などを活用しましょう。
- ・ こどもは好奇心旺盛で興味がある方に走っていくので、**できるだけ目を離さない**ようにしましょう。

予防

屋外で転倒・転落

- ・ キックスクーターなどに乗る際は、**ヘルメット**や**膝・肘当て**を装着しましょう。
- ・ こどもが普段からよく遊ぶ場所には、**物をたくさん置かない**ようにし、**そういう場所では遊ばない**よう教えましょう。
- ・ 水筒などを身につけた状態で転倒すると、予期せぬ**けがにつながる**場合があります。**水筒などをたすきがけする際は十分に注意**しましょう。



原因別の事故防止ポイント

【交通事故編】

- 令和5年に交通事故で負傷し救急搬送された0~12歳までのこどもは59名で、事故の状況を調べると、**自転車運転中**が一番多く、次いで**歩行中**でした。
- 令和元年度の警察庁の調査では、チャイルドシート着用率は約7割で、交通事故で死亡したこどもの約8割がチャイルドシートの不適正使用・不使用でした。

予防

自転車・歩行者

- 自転車に乗る場合、**必ずヘルメット**をかぶせ、**膝・肘当て**を装着しましょう。
- 親子で定期的に自転車の**安全点検**や**交通ルール**の**確認**を行いましょう。
- 歩行中の事故を防止するため、こどもの**行動範囲**を一緒に歩き、**交通ルール**や**安全な歩き方**を**確認**しましょう。
- こどもと大人では目線が違います。
こどもの視点から見通しの悪い場所などの**危険箇所**を一緒に**確認**しましょう。

予防

自動車に同乗

- 6歳未満**のこどもを車に同乗させる場合、**チャイルドシート**を**必ず正しく着用**しましょう。
(6歳以上でも体格等によって、シートベルトを適切に着用させることができない場合は、チャイルドシートを使用しましょう。)
- 交通事故ではないですが、**車内置き去り**は**熱中症の原因**などとなり危険です。
自動車から降りる際は**後部座席**を確認することを**習慣化**しましょう。
スマホや**貴重品**が入った**カバン**をあえて後部座席に置くようにすれば、自然と後部座席を確認することができます。



原因別の事故防止ポイント

【窒息・誤飲編】

- ① 赤ちゃんは身の回りの物に興味を持つと、何でも口に入れてしまい、時にのどに詰まったり、飲み込んでしまうので、手が届く範囲は注意が必要です。
- ② 赤ちゃんの成長は著しいので、「まだ、大丈夫だろう」と思うのは危険です。昨日までは届かない場所も明日には届くようになるかもしれません。

予防

窒息

- ・ ミルクの吐き戻しによる窒息を防止するため、授乳後、げっぷをさせてから寝かせましょう。
- ・ 食品を口に入れたまま遊んだり、寝転んだりさせないようにしましょう。
- ・ 肉、いか、貝などのかみきりにくい食品は、0～1歳児には食べさせないようにしましょう。
- ・ 年上のこどものおもちゃには、小さな部品が含まれている場合があるので、対象年齢になるまでは、手の届かないところに保管しましょう。

予防

誤飲

- ・ ボタン電池の誤飲は危険です。絶対にこどもの手の届かないところに保管しましょう。
- ・ 医薬品や洗剤、化粧品などは、こどもの目に触れない場所や手の届かないところに保管しましょう。
- ・ たばこやお酒の誤飲は、ひどい中毒症状をきたす場合があるので、こどもの目に触れない場所や手の届かないところに保管しましょう。



原因別の事故防止ポイント

【やけど編】

- ✓ テーブルの端においたものに手を伸ばしたり、クロスを引っ張ることで、味噌汁やカップラーメンなどを倒してしまい、高温の液体をあびてやけどをします。
- ✓ 電気ケトルのコードを引っ張って倒してしまったり、ファンヒーターなどに直接接触してしまい、やけどをすることもあります。

予防

キッチン

- ・ こどもの手が届かないように、高温の飲み物や汁物をテーブルに置くときは**中央**に置きましょう。
- ・ **テーブルクロス**や**ランチョンマット**は、こどもが引っ張って、その上の載った容器を倒す原因になりやすいので、十分に注意しましょう。
- ・ 電気ケトルやポットは倒れても**中身がこぼれない製品**や**電源コードが磁石などで容易に脱着するタイプ**の製品を選びましょう。

予防

暖房器具など

- ・ 床に置くタイプの暖房器具は、こどもの手が届かないよう**安全柵**などで囲みましょう。
- ・ アイロンやヘアアイロンを使用する際は**こどもを近づけない**ようにし、使用後はこどもの手の届かないところに置きましょう。
- ・ 電気カーペットなどは、**低温やけど**を起こす可能性があるため、長時間の使用は控えましょう。



原因別の事故防止ポイント

【スポーツ・動物編】

- ☑️ 一般的に相手と接触するスポーツの方がけがの可能性が高くなります。また、適切に水分補給や休憩をとらないと熱中症のリスクが高まります。
- ☑️ 犬や猫に限らず、蜂、蛇、蜘蛛などにかまれ（刺され）ると、傷口から感染を起こしたり、毒素やアレルギー反応によって、重症化することがあります。

予防

スポーツ

- ・ 種目によりますが、正しいサイズ、用途に合った防具を着けましょう。
- ・ プレー中にもしも痛みを感じたら、すぐにプレーを中断しましょう。
- ・ プレーの前、最中、後に十分な水分補給を行いましょう。
- ・ 軽くて風通しの良い衣服を着用し、こまめに休憩するようにしましょう。

予防

動物

- ・ 短時間であっても、絶対に小さい子どもと犬と一緒に放置しないようにしましょう。
- ・ ペットをサークルやゲージに入れるなど、空間的な分離を図りましょう。
- ・ 子どもは危険な動物を判断できないため、屋外などで遊ぶ場合などは、その場所が安全か蜂や蛇などがいないかを大人が確認してあげましょう。



原因別の事故防止ポイント

【入浴中・溺水編】

- 一般的に4歳以下では家庭内の浴槽でおぼれる事故が多く、5歳以上になると屋外での溺水事故が増えます。
- おぼれる時、こどもは声を出さず、静かに沈みます。
乳幼児では、たった3cmの深さでもおぼれる可能性があります。

予防

入浴中

- 大人が髪を洗っている間は、こどもを浴槽から出しましょう。
- 小さなこどもが入浴する場合、できるだけ複数の大人が関わるようにしましょう。
- お風呂から上がる際には、こどもを先に浴槽・浴室から出しましょう。
- 入浴中は、こどもから目を離さないよう特に注意しましょう。

予防

溺水（屋外）

- こどもだけで海や川などで遊ぶことがないように注意しましょう。
- 川や海で遊ぶときは、必ずライフジャケットを着用しましょう。
- 泳いでいるこどもに手の届く範囲内にいましょう。
- 危険な場所で遊ばないよう日頃から話しておきましょう。



負傷別の応急処置ポイント

【打撲・出血編】

- 転倒等によって打撲すると、損傷した部分を修復するために患部に血液組織が集まってきた、皮膚が赤色～紫色になったり腫れたりします。
- 出血を伴うけがをした時、傷口についた雑菌や汚れが原因で化のうしやすいので、軽視せずに適切な応急処置をすることが大切です。

処置

打撲

- ・ 軽度の打撲の場合は、タオルを巻いたアイスパックなどで打撲部を冷やしましょう。
ただし、**低温やけど**が起こる場合があるので、**冷やしすぎに注意**しましょう。



処置

出血を伴うけが

- ・ 水道水で**傷口の汚れをしっかりと洗い**ましょう。
- ・ 清潔なガーゼやハンカチなどを出血部にあて、その上から指先や手のひらで**5分以上圧迫**し、止血しましょう。
- ・ 大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても**止血できないときは、両手で体重を乗せながら圧迫**します。





負傷別の応急処置ポイント

【窒息・誤飲編】

- 食べ物や異物がのどにつまる窒息では、正常な呼吸ができなくなります。まずは、呼吸ができているか確認し落ち着いて対応しましょう。
- 誤飲の場合、のんでしまった物によって、緊急性の高いものや吐き出させてはいけないものがあります。

処置

窒息

- ・ のどに何かが詰まってしまった場合、呼吸をしていないときや顔色がおかしい場合は救急車を呼びましょう。
- ・ 呼吸ができない場合、1歳未満では背部叩打法と胸部突き上げ法、1歳以上では背部叩打法と腹部突き上げ法を行い、異物除去を試みましょう。
- ・ 異物除去できず、意識がなくなった場合、後述の心肺蘇生法を行いましょう。

窒息時の対応については、
「食品による窒息子どもを守るためにできること」
(日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会)
に分かりやすく詳しく載っていますので是非ご覧ください。



処置

誤飲

- ・ 基本的には吐かせず、誤飲したものと同じものがあれば、持参し病院を受診しましょう。
- ・ 応急手当や受診の必要性が分からないときは、医療機関や子ども医療電話#8000に相談しましょう。
- ・ 灯油、ベンジン、除光液、農薬、殺虫剤、ネズミ駆除剤などを誤飲したときは、救急車を呼びましょう。



負傷別の応急処置ポイント

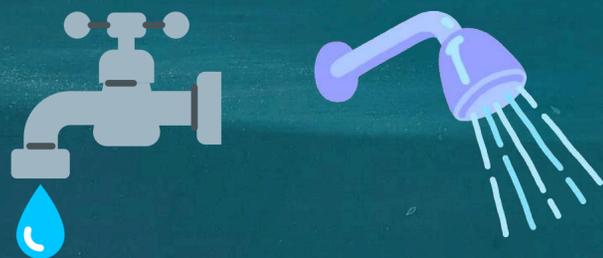
【やけど・熱中症編】

- やけどは、ひどい場合、治っても、跡が残ってしまうことがあります。適切な応急処置を行い、医療機関を受診しましょう。
- 熱中症は、応急処置を知っていれば、重症化を回避し後遺症を軽減できる可能性があります。

処置

やけど

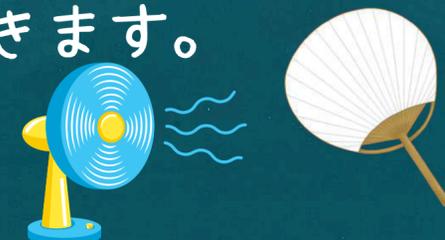
- ・ やけどをしたら、**すぐに流水で10分以上冷やしましょう。**
- ・ 服の上から熱湯を浴びた場合などは、無理に脱がせようとせず、**着衣のまま冷やしましょう。**
- ・ やけどの範囲が広い場合、冷やしている間に**体温が下がり過ぎないように注意**し、医療機関を受診しましょう。



処置

熱中症

- ・ 意識がはっきりしているときは、**涼しい場所へ移動させ、服をゆるめて、体を冷やしてあげましょう。**
- ・ 体を冷やす場合、太い血管のある脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やしてあげましょう。
- ・ 飲めるようであれば、**水分と塩分を補給**させてあげましょう。
- ・ 濡れタオルなどを体にあてて、扇風機やうちわであおいであげると効果的に冷却できます。





負傷別の応急処置ポイント

【溺水編】

- ① こどもの溺水を発見したら、まず水の中から引き上げ、平らな場所に寝かせましょう。水から、引き上げるときは頭を胸より下に下げた状態にするのがポイントです。
- ② 水中から引き上げた後は、声をかけたり、体を軽くたたいたりして、意識を確認しましょう。

処置

意識がある場合

- ・ 乾いたタオルなどを使用し、体を温めてあげましょう。
- ・ 嘔吐することがあるので、顔を上に向けて寝かせないようにしましょう。
- ・ 体を大きく揺さぶると、反射的に水を吐き、気道に入ってしまうことがあるので注意しましょう。
- ・ 溺れた場合は、一見大丈夫そうに見えても、病院を受診させてあげた方が安心です。



処置

意識がない場合

- ・ すぐに救急車を呼びましょう。
- ・ 呼吸を確認し、呼吸がないか普段どおりの呼吸でない時は、すぐに心肺蘇生法を行きましょう。
- ・ 溺水による心肺停止は、呼吸できないことが原因なので、胸骨圧迫はもちろん、人工呼吸が重要です。
- ・ 心肺蘇生法については、次のページに詳しく書いているので、ご覧ください。



心肺蘇生法のポイント【小児編】

- ① まずは、その場所が安全か確認をしましょう。
- ② こどもの肩をやさしくたたき、大きな声で呼びかけ反応を確認しましょう。
新生児や乳児の場合には足の裏などを刺激して反応を確認しましょう。
- ③ 反応がない場合は、大きな声で応援を呼んでください。そばに誰かいる場合は、119番通報とAEDを持って来るよう依頼しましょう。誰も来てくれない場合は、119番通報し次のステップへ
- ④ 10秒以内でこどもの胸とおなかの動きを見て、呼吸をしていない、または普段どおりの呼吸ではないと判断した場合は、ただちに胸骨圧迫を開始しましょう。
胸の厚さが3分の1くらい沈む強さで、1分間に100~120回のスピードで圧迫します。
 - 幼児の場合：胸骨の下半分を、手のひらの根元で押します。
 - 乳児の場合：左右の乳頭を結んだ線の中央で少し足側を、指2本で押します。
- ⑤ 胸骨圧迫を30回した後人工呼吸を2回しましょう。
あお向けにして、頭を後ろに反らし、同時に顎の先を上を持ち上げ、気道を確保します。
 - 幼児の場合：鼻をつまみ、口と口をくっつけて息を吹き込みます。
 - 乳児の場合：口と鼻を一緒に覆い、胸が軽く上がる程度まで息を吹き込みます。
- ⑥ その後は、救急隊に引き継ぐか普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで、胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を繰り返し行いましょう。

Check! 119番通報時にスピーカーにすることで、指令センター員から指導を受けながら、処置をおこなうことができます。



心肺蘇生法のポイント【つづき】

- ・ AEDの使い方も大切ですが、こどもを助けるためには、まずは正しい心肺蘇生法をマスターしましょう！
- ・ 文字や資料を見ただけでは、心肺蘇生法ができるようになりません。
- ・ いざという時、正しい心肺蘇生法が行えるように、消防局が実施する**救命講習**を受講しましょう。

救命講習の開催日程・申込方法についてはこちらをご覧ください。



ぜひ救命
講習を受
講してね



小児事故防止について【まとめ】

- こどもの周囲の大人たちが、安全な製品の選択や正しい利用し、こどもの生活環境を整備して、対策を立てることで、**防げる事故**があります。
- 事故の内容に関係なく、唇の色や顔色が悪い場合、呼吸がおかしい場合、出血が止まらない場合、意識がない場合などは**迷わず救急要請してください！！**
- 明るく楽しい子育てと、こどもの**”笑顔”**のために、本マニュアルが、こどもを事故から守る正しい知識を身に付ける一助となれば幸いです。



参考

- ・「今すぐ救急車を呼び、病院に行くべきか」判断に迷う時には、総務省消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」を利用しましょう。

Check!
Q助案内サイト



- ・救急車を利用するほどではないけれど、どこの医療機関を受診すればいいのかわからないときは、24時間体制で最寄りの医療機関を案内してくれる「和歌山県救急医療情報センター」(073-426-1199)を利用しましょう。
- ・夜間・休日に子供が急病になったとき、すぐに病院に行った方がいいのか、それとも様子を見て大丈夫か判断に迷う場合は、「子ども救急相談ダイヤル (#8000)」を利用しましょう。看護師(必要に応じて医師)が相談に応じてくれます。

【相談可能日時】 平日 午後7時から翌朝9時まで

土・日・祝・年末年始(12月29日~1月3日まで) 午前9時から翌朝9時まで